

和雑誌目録システムの書誌データ記入について

目録所在情報サービスのうち、「和雑誌目録登録」業務は昭和63年1月より、「洋雑誌目録登録」業務は同年7月よりそれぞれ運用を開始いたしました。また、同年3月には、ながらく暫定処置としてきた「目録情報の基準(雑誌書誌・所蔵ファイル関連分)」を正式に制定し(「オンライン・システムニュースレター」No.14pp.30-43参照)、現在、登録業務の実際に関わる記入細則、具体的処理方法などについてまとめた「コーディングマニュアル」の作成に取り組んでおります。この「コーディングマニュアル」の完成には、まだしばしの日数を要する見込みです。

しかしながら、すでに入力を開始している参加組織からの要望もあり、また前号でもお知らせした「学術雑誌総合目録・和文編」新版編集のためのデータ調査も近づいておりますので、「コーディングマニュアル」の刊行に先立ち、和雑誌書誌データ記入に関する基本的な留意点についてとりまとめました。入力にあたっては、以下の指針に従ってください。

1. 書誌レコード作成単位

「目録情報の基準」6.2.3, 6.2.3.1に従い、以下のような場合にはそれぞれ別個の書誌レコードを作成することとします。

- ア 本標題(部編名を含む)が変遷したもの1)。
- イ 版表示の異なるもの2)。
- ウ 資料種別(形態)の異なるもの3)。
- エ 複製・原本代替資料。
- オ 合冊誌、合刻複製版に収録されている、各逐次刊行物。

加えて、

- カ 本体とは別に独自の巻号次を持つ付録(「ジュリスト増刊」、「別冊ジュリスト」など)
- キ 部編表示の異なるもの。

- 標題関連情報の変更は変遷とは認めませんが、標題関連情報が本標題と同等のもの(例えば、本標題が簡略形で標題関連情報がその完綴形、等)である場合は、この変更を変遷とみなします。

責任表示の変更も、通常は変遷とは認めませんが、標題が一般的で責任表示なしでは他書誌との識別が困難なもの(「紀要」、「研究報告」など)の場合は、責任表示の変更も変遷であるとみなします。

- 巻次年月次と同等な版表示(1989年版など)、定期的改訂を示す版表示(上半期改訂版など)は巻号次とみなすので、これらの相違は別書誌とする根拠とはなりません。
- 同一資料で、部分的に形態を異にするもの(本体が印刷形態で、索引がマイクロ形態であるものなど)の場合は、それぞれを別書誌にはしません。

2. 標題

情報源は初号の表紙です。初号を所蔵していない場合は入手できるものの最初の号を用いますが、このときは必ず根拠とした号について注記してください。

表紙を持たない資料については、標題紙、背、奥付、題字欄を(この優先順位で)情報源とし、必ず情報源とした箇所について注記してください。

3. 責任表示

- 情報源は、表紙、標題紙、背、奥付、題字欄とし、これらに表示されているもののうちから最も適切な表示を選んで下さい。
- TRフィールドの責任表示の項には、主に、編集団体を(「-編」などの役割表示が表記されていれば、それと共に)記入してください。「編集者」として表示されていても、それが編集団体の単なる代表者である場合はこれを採用せず、編集団体名を記入してください。
個人編者はTRフィールドには記入せず、NOTEフィールドに「编者表示」として記入してください。
- 責任表示の冒頭に表示されている、法人組織を表す語(「株式会社」、「社団法人」など)は省略してください。
また、NCR87の14.1.5.2Bに示されている「たんに編集実務を担当するその団体(编者)の内部組織名」の扱いについては、これを省略しないでください。
- 責任表示のヨミは、TRフィールド中には記入しないでください(「オンライン・システムニュースレター」No.18p.10参照)。
- 責任表示の変更があった場合には、NOTEフィールドに「責任表示変更」として記入してください。
- TRフィールドに入れなかった個人编者、変更後の責任表示でも著者名典拠(ALフィールド)を作成してください。
また、ALフィールドにはヨミを必ず入れてください。

4. 出版事項

複数の出版者が表示されている場合、顕著なもの、最初のもの順で出版者(および対応する出版地)を1つだけ選択してください。

出版年は、初号の出版(発行)年を西暦に直し、末尾にハイフンを付けて記入します。すでに完結しているもの場合は、ハイフンのあとに続けて終号の出

版(発行) 年を西暦に直したものを記入します。

出版年データは、VLYRフィールドの年次データとまったく同一であっても省略せずに、必ず記入してください。さらに詳細な点については、「学術雑誌総合目録・和文編」の「データ記入要項」の形でまとめる予定です。

雑誌目録システムの誌名変遷データの更新について

「オンライン・システムニュースレター」No.17でお知らせしたように、変遷ファミリー1個単位で更新可能なシステムが稼働しました。このシステムは、参加館より送られてきた「変遷注記用データシート」をもとにセンター側で二項関係ファイルを更新し、その二項関係ファイルより、雑誌変遷マップファイル(和・洋)と雑誌書誌マスタファイル(和・洋)中の変遷注記を更新するものです。これにより、上記ファイルに対し随時追加・更新ができるようになりました。

従来は、変遷関係の追加の場合に限り、変遷注記フィールドへの仮入力をしていただいていたのですが、一括更新方式のため、上記ファイルへの反映にかなりの日数を要しましたので、ファイル間の整合がとれない期間がありました。また仮入力後、「変遷注記用データシート」の送付されないケース、雑誌書誌マスタファイルに対して直接、修正、削除をされているケースも見受けられました。

今後は、変遷関係が生じた場合は、変遷注記フィールドへの入力を行わずに、すみやかに「変遷注記用データシート」を情報源のコピーと共にセンターまで送付してください。その後、センター側で随時処理いたします。

なお情報源は、和雑誌の場合、変遷前誌の終号、変遷後誌の初号の表紙とし、その際標題紙、見出し、題字欄、エディトリアル・ページ、奥付等で異なる表記がある場合は、それもお送りください。また、洋雑誌の場合の情報源は、変遷前誌の終号、変遷後誌の初号の標題紙ですが、和雑誌同様見出し等と表記が異なる場合は、それもあわせてお送りください。

目録システムに関する最近の質問書から

(1) VOLフィールドのデータの記入方法について

Q:

VOLフィールドのデータが非常に長く、所蔵データがSAVEできないことがある。どうにかならないか。

A:

総合目録データベースのVOLフィールドは出版物理単位ごとの巻次等を識別に必要な範囲で記入するようになっております(オンライン・システムニュースレターNo.5 p.7)。

ところが、現在、VOLフィールドには識別に必要な範囲以上の情報が記入されていることが多く、そのため、所蔵レコードのデータ量が大きくなり、所蔵入力画面での入力上の負担が増加しています。また、場合によってはデータを登録できないという問題が生じています。

そこで、VOLフィールドには識別可能な最低限の情報を記入するとともに、それに付随する説明語句的情報、例えば「第1巻明治11年～明治20年」の「明治」以降についてはNOTEフィールドに記入するよう、改めて注意を喚起したいと思います。なお、NOTEフィールドは次のように記入することとします。

NOTE: 第1巻:明治11年～明治20年.△第2巻:明治21年～明治30年.△第3巻:

(2) 書誌レコードの修正のルールについて

Q:

書誌レコード修正の方法について明確なルールを定め、各参加機関に周知してほしい。

A:

書誌単位のとり方が異なる、データ自体に疑義がある等の場合には、各参加機関間で連絡した上で調整していただくことにしています。ですが、その調整の方法については各参加機関の良心に任せ、特にルールを定めたりはしませんでした。しかし、現実には調整の段階で種々の問題が生じているようですので、ここでルールを明確にすることにします。

上記のような書誌レコードを発見した場合には、発見した参加機関(以下、

発見館)が書誌を作成した参加機関(以下、作成館)に連絡し、双方で見解を統一した上で 作成館が書誌レコードを修正することとします。また、それに伴い所蔵レコードをつけかえなければならない場合には、作成館が責任を持って行うこととします。

ここでいう作成館とは、所蔵レコードIDの最も小さい参加機関とします。

(3) 複製資料の扱いについて

Q:

UMIから刊行される学位論文の複製等に代表される「注文生産」の複製資料の記述はどう行うのか。

A:

AACR2とLCの適用細則が異なるため、原本の記述を優先するか、複製そのもので記述を行うかのゆれが生じています。

AACR2に従い複製として記述を行う方向で検討を進めていますが、出版年の扱いをどうするか等の問題があり、方針決定まで若干時間がかかる見込みです。

それまでの間は、各参加組織の従来どおりの方法でデータ記入を行って下さい。ただし、記述方法の違いによる重複レコードは認められません。既存レコードがあれば 各参加組織の方法と異なる場合でも、レコード修正を行わず、当該レコードをそのまま使用して下さい。

(4) 著者名典拠レコードの作成方法について

Q:

著者標目のヨミが不明の場合、日本人であってもヨミを記入しないでレコードを作成してよいか。

A:

特に寡作な著者の場合等、参考文献によっても姓名のヨミが不明なことがあるかと思われませんが、そのときは、常識的なヨミをHDNGフィールドに記入し、ヨミが確定していない旨の注記を行って下さい。

なお、後日ヨミが判明した場合は、SFフィールド、NOTEフィールドを適宜使用してレコード修正を行って下さい。

(5) 「目録情報の基準」について

Q:

基準の条文中には「～することができる。」等の表現が散見するが、このような場合は、入力レベルODと同様に、各参加組織が「～する」か否かを自由に選択すると 解釈してよいか。

A:

このような表現は、大体において選択項目と見做すことが可能ですが、レコードの作成単位等にかかわる条文中でも出現しているため、混乱が生じてしまいました。

「コーディングマニュアル」のレベルで解決可能なものについては、随時、方針を示していく予定ですが、今回の事例はその範囲を超えているため、「基準」の条文の表現方法の見直しを含め、現在、「基準」の整備を行っております。

目録システム障害について

本年3月末より6月末までの間、目録システム上で接続障害が頻発し、各参加機関にはたいへんご迷惑をおかけしました。

これについては、現象が複数あり、そのうちのひとつについて、原因が計算機システム本体と通信装置との間におけるデータ受渡し上のタイミングのずれと判明したため、6月28日に対策を行いました。

書誌調整に伴う所蔵レコードの付け替え処理について

オンライン目録システムのニュース画面でもお知らせしてありますが、VOLの繰り返しで所蔵レコードが作成されている下記の白書類については、各巻に「固有の標題」が存在しますので、その「固有の標題」が書誌レコード作成の単位となります(オンライン・システムニュースレターNo.14pp.13-15)。そこで、親書誌となるべき下記の書誌IDの方に所蔵レコードを付けている各参加機関は、リンクしている所蔵レコードを、その書誌にリンクされている子書誌に所蔵レコードを付け替えてくださるようお願いいたします。

書誌ID	タイトル
BN00032997	経済白書
BN00059676	コンピュータ白書
BN00217970	子ども白書
BN00291088	建設白書
BN00291634	海外労働白書
BN00303788	警察白書
BN0031112X	婦人白書
BN0035622X	世界経済白書
BN00399200	犯罪白書
BN00467865	労働運動白書
BN00576372	国民生活白書
BN00703425	科学技術白書

マニュアル検索編(改訂版)の訂正について

今年3月31日付けで刊行した「目録システム利用マニュアル検索編(改訂版)」において一部の記述に誤りがあり、目録担当者各位に御迷惑をおかけしてしまいました。単なる字句の異同以外の、目録検索業務に影響を及ぼす可能性のある重要な事項について、以下に訂正内容を掲載します。

頁-行	誤(下線部分)	正
25-下15	その1字前が1バイトの英数字 (アラビア数字、又はローマ字)	当該記号の1字前がかな (カタカナ/ひらがな)以外
122(表)	コード「sun」と「sux」の 間に、コード「sus」を追加	sus Susu スス語
172(表)	(注)・対応するローマ字のない ものは全てデリミタで...	(注)・R(Registered-mark: DF21)はデリミタで...
181(表)	E127 Miagkiy-znak E12A Alif E12B Ayn E132 Tverdiy-znak	(表6-6からこの4つを削除)

コード表について

総合目録データベースへのレコード登録に際しては、「目録システム利用マニュアル検索編(改訂版)」、及び「コーディングマニュアル」に収録した最新のコード表によってコードの記入を行って下さい。「目録システム利用マニュアルDB編」には、現在使用不可能な旧コードが混在していますので、「DB編」のコード表の使用は避けて下さい。

なお、目録システムのコード表の改訂は、米国議会図書館の「USMARCCodeList」の改訂に合わせて随時行われますが、今回、「コーディングマニュアル」に収録した新コードのうちの一部で、レコード登録時のデータチェックの際にエラーとなってしまうものが発生してしまいました。これらのコードについては、当センターでリストアップを終了し、8月末にデータチェック項目の見直しを行う時点で記入可能なように修正するための準備をすすめています。それまでにエラーとなった場合は、当該コードを使用せず、当該コードと、使用すべきレコードのID番号等に関する情報の連絡をお願いいたします。当センターでは、データチェック項目の見直し時に、当該レコードの修正を一括して行うことにします。

重複レコード処理結果について

前号でもお知らせしました重複レコードの統合処理及び削除予定レコードの削除処理について、その後に行った件数について報告します。

5月7日から7月21日までに各接続大学図書館から報告された重複レコードは報告書件数にして、77件(重複件数:和図書 105件、洋図書 53件、著者名典拠 66件)でした。

当センターの調査分を含め、重複レコードの統合処理を行ったものは次のとおりです。

	重複の統合処理	削除予定レコードの削除処理
和 図 書	175	270
洋 図 書	137	186
和 雑 誌	0	51
洋 雑 誌	0	66
著者名典拠	0	128

(上記の統合処理結果については、7月7日付で各機関へ「修正結果報告」として、お送りしている分に含まれています。)

総合目録データベースの磁気テープサービスについて

現在当センターでは、総合目録データベースに入力された書誌・所蔵・典拠の各データを、磁気テープで各参加機関に還元するサービスを実施しております。このサービスには次のものがあります。

1. 各参加組織の所蔵に関わる全データを抽出して磁気テープ化するサービス(個別版サービスといいます)

これには、対象とするデータベースによって次の種類があります。

- ・ 学術雑誌総合目録和文編
- ・ 学術雑誌総合目録欧文編
- ・ 総合目録和図書編
- ・ 総合目録洋図書編

2. 各参加組織の、ある一定期間の入力に関わるデータを抽出して磁気テープ化するサービス(定期版サービスといいます)

総合目録(図書・雑誌)について、週1回・月1回のいずれかの頻度を選択することができます。

申請にあたっては、次の「総合目録個別版提供申請書」を用いて事業部システム管理課システム業務係宛て申し込んでください。

総合目録個別版提供申請書

学術情報センター所長殿

平成 年 月 日

利用代表者

印

利 用 者	名 称	参加組織コード (4つ以上ある場合は、別紙に記入のこと。)			FA
	所在地				FA
					FA
連絡担当者	職 名	氏 名	TEL		
利用目的					
	<input type="checkbox"/> 学術雑誌総合目録和文編	磁気テープ	<input type="checkbox"/> 1600 BPI		
	<input type="checkbox"/> 学術雑誌総合目録欧文編	記録密度	<input type="checkbox"/> 6250 BPI		

申請区分 (* はセンター 接続館 に限る)	<input type="checkbox"/> 総合目録個別版和図書編 *		出カルート	<input type="checkbox"/> 書誌ルート †
	<input type="checkbox"/> 総合目録個別版洋図書編 *			<input type="checkbox"/> 所蔵ルート ‡
	<input type="checkbox"/> 定期版サービス(週 1回) *		備考	
	<input type="checkbox"/> 定期版サービス(月 1回) *			
センター 記入 欄	受付日	平成 年 月 日	受付番号	
	作成日	平成 年 月 日	担当者	
	発送日	平成 年 月 日	備考	

† 書誌データの下に所蔵データが一括して付く、冊子目録とほぼ同様の出力形態。
‡ 各資料の所蔵データを単位とし、その 1件ごとに書誌データが付随する出力形態。

上記の申請書について、下記の条件を付して承認します。

平成 年 月 日
学術情報センター所長

記

1. 個別版ファイルの利用については無償とする。ただし、個別版ファイルの引き渡しに要する費用については、利用者において負担すること。
2. 個別版ファイルは、善良な管理者の注意をもって管理し、その効率的使用に努めなければならない。
3. 個別版ファイルは、転貸または担保に供してはならない。
4. 個別版ファイルは、申請した利用目的以外の目的のために使用してはならない。
5. 個別版ファイルを利用して作成した印刷物(目録等)、研究成果の報告書等は、その1部を完成後速やかに学術情報センター所長へ提出すること。

図書館職員用のBBS(電子掲示板)について

7月13日より、電子メールシステム内の電子掲示板に図書館職員用の掲示板を用意いたしました。「LIB」という掲示板がそれです。図書館職員であればどなたでも利用できます。

現在、「LIB」という掲示板の下に5つの掲示板、CAT,REF,INF,TEA及びCNFがあります。

CATは、目録担当者間の連絡や意見交換を行う場として、

REFは、参考質問、相互利用の場として

INFは、その他の業務上の情報交換の場として

TEAは、その他の一般的な情報交換の場として

CNFは、特定利用者グループ用の討議の場として、利用していただければと考えています。

なお、CATの下には近々「目録情報に関する質問」や「オンライン・システムニュースレター速報版」の掲示板を用意する予定です。準備が整い次第、目録システムのニュース画面で詳細にお知らせいたします。

データベース登録状況

総合目録データベース

平成元年7月20日現在

データベース名			件数
図書	和	書誌	281,193
		所蔵	962,780
	洋	書誌	607,434
		所蔵	976,615
雑誌	和	書誌	47,300
		所蔵	1,017,093
	洋	書誌	102,063
		所蔵	848,976
著者名典拠			285,002
統一書名典拠			604
和雑誌変遷マップ			5,768
洋雑誌変遷マップ			12,701

参照ファイル

平成元年7月20日現在

データベース名	件数	収録内容
参照LC	図書	3,057,976
	著者名典拠	2,008,962
	統一書名典拠	11,229
	雑誌	440,084
参照JP	図書	カレント分 1977年～最新分
		遡及分 1969年～1976年 科学・技術編 経済・産業編 社会・労働・教育編 政治・法律編 歴史・地理編 学術一般・哲学・宗教編 芸術編 言語・文学編
	著者名典拠	26,288
参照UK	図書	1,079,369
参照TRC	図書	172,323
参照GPO	図書	256,665